

1. 災害に向き合う理想の地域と、実現に向けた現状と課題

<理想の地域と現状>

① 学習・教育

- 理想**
- 過去の体験から、問題意識を共有し、学ぶことができる
 - 子どもの考える力を生かすことができ、大人への波及効果をもたらすことができる
 - 地域住民が、自ら課題を見出し、解決するプラットフォームが整備されている

【現状】胆振東部地震の後、防災関連の講座が増加

② 情報共有・情報リテラシー

- 理想**
- 地域住民が誰でもアクセスすれば繋がり合え、情報共有が図れる環境がある
 - 住民一人一人が正しい情報を的確に捉え、適切な行動ができる

【現状】インターネットやSNS等の普及により、容易に情報交換ができ、様々なかたちで人と繋がる機会が増加

③ 地域コミュニティ/連携・協働

- 理想**
- 地域住民の相互交流や、世代間の交流促進が活発に行われている
 - 住民一人一人の顔が見え、気軽に挨拶しあえる人間関係が構築されている

【現状】町内会活動や、ご近所付き合い等、地域住民の身近な交流について、機会が無く、参加したことの無い人が増えている(町内会が合わない生活スタイルの人もいる)

④ リーダー・担い手

- 理想**
- 地域の精神的支柱になれるリーダーが存在している
 - 子どもたちが地域において将来の担い手となっている

【現状】「さっぽろ市民ガレッジ」において、ファシリテーターやボランティアなどの養成講座を実施し、まちづくりに参画できるリーダーの育成を行っている

⑤ 防災活動・被災時の活動

- 理想**
- 非常時に住民一人一人の意識と行動により、共助が機能する
 - 地域住民や組織の役割が明確となっている

【現状】児童生徒が、子どもの頃から防災に関する知識を身に付け、防災意識を高められるようにするため、防災教育用教材を小中学校に配布している

⑥ 多様性と社会的包摂

- 理想**
- 地域住民が他人を尊重し、多様性を理解している
 - あらゆる人間に人権があることを忘れない

【現状】地域住民が災害時に、要配慮者(高齢者、子ども、外国人等)を支援できるよう、災害時支え合いハンドブックを作成している

<課題>

- 仕事や子育てなど家庭の事情で講座等に参加できない人への学習機会の提供
- 子どもの学びが、家庭や大人に浸透するような、機会の創出
- 地域住民が自発的に参加したいと思える環境づくり

- 情報弱者への配慮や情報モラルの教育
- SNS等の活用により情報発信力が高い若年層の地域活動への取り込み

- 生活スタイルの変化に対応したコミュニティの形成や、これまで活用されてこなかった、新たなコミュニティの有効活用
- 住民同士が、地域にどのような人が住んでいるか把握し合い、顔見知りが増えるようなきっかけづくり
- 人同士の繋がりのほか、町内会や行政などの組織や、NPO法人などの団体との連携強化

- リーダーの育成に留まらず、活躍できる機会の提供
- 要となる人が情報共有を図れるよう、地域におけるさまざまな分野のリーダーによる、ネットワーク構築
- 地域が長期的な視点に立ち、子どもたちが将来の担い手となれるようなきっかけづくり

- 地域全体で平常時から個々人の防災意識を高められるよう、大人に対する防災教育の機会提供
- 住民同士がお互いに助け合える意識の醸成

- 地域を知るうえで、要配慮者(高齢者、子ども、外国人等)への理解や気づきの視点を取り入れる
- 階層や思想の違う層が、それぞれの立場を理解し合えるきっかけづくり

2. コロナと共存していく社会における新たな課題

新たな課題

新型コロナウイルス感染症の下で、「新しい生活様式」の定着が進むなか、新たな日常の実現に向けた、地域社会づくりが求められており、これまで対面を主として活動していた社会教育の在り方が問われている。
⇒上記1で示した内容をもとに、コロナ禍において、新たに想定される課題の整理が必要

今後の協議の方向性

■コロナと共存していく社会において、災害を通して見えてきた理想の地域の実現に向け、社会教育としてどういったことができるか、社会教育の在り方を検討する